

第57回横浜労災病院地域医療支援委員会議事録

- 【開催日時】 令和3年3月10日（水） 19:30～20:30
【場 所】 横浜労災病院 管理棟地下大会議室
【司会進行】 内藤委員長（議事の進行）
高橋事務局次長（議事以外の進行）
【出席委員】 内藤委員長 鈴木副委員長 山本（俊）委員 清水委員
岩田委員 大山委員 芝山委員 二宮委員 坂本委員
山本（智）委員 吉田委員 北川委員 片山委員

- 1 開会
- 2 病院長挨拶
- 3 議事

（1）入院・外来患者数等実績報告（令和2年度1月累計）

- 1 紹介・逆紹介件数
紹介及び逆紹介件数（月平均）は、令和元年度 1669.0 件/1584.5 件、令和2年度（1月累計）1290.8 件/1435.3 件となり、新型コロナの影響により紹介・逆紹介ともに減少している。
- 2 紹介率・逆紹介率
紹介率及び逆紹介率は、令和元年度 93.7%/88.9%、令和2年度（1月累計）91.9%/82.7%となり例年並みの結果となった。
- 3 入院患者数・平均在院日数
1日平均入院患者数及び平均在院日数は令和元年度 525.1 人/10.1 日、令和2年度 444.8 人/10.5 日となり、新型コロナの影響により患者数は大きく減少したが、平均在院日数は例年並みであった。
- 4 外来患者数（延患者数・実患者数）
1日平均外来患者数（入院中外来患者数/外来時他科受診患者数/実患者数）は、令和元年度 1859.1 人（381.1/424.4/1053.6）、令和2年度 1587.8 人（1月累計）（344.3/278.0/965.5）となり、新型コロナの影響により実患者数が大きく減少した。
- 5 救急患者数・救急搬送件数
月平均救急患者数及び救急搬送数は令和元年度 2019.8 人/592.1 台、令和2年度 1448.6 人/475.2 台（1月累計）となり、新型コロナの影響により患者数は大きく減少したが、救急搬送件数がそれほど変わらないことから、ウォークインの来院患者が減少したと思われる。

6 新入院患者の経路別入院数

新入院患者の経路別入院数(救命救急センター経由の入院比率/救命救急センターを経由の入院数/一般外来からの入院数)は、令和元年度30.7%(507.4人/1146.4人)、令和2年度(1月累計)32.1%(439.0人/926.9人)となり、新型コロナの影響により外来患者数は大きく減少したが、救命救急センター経由の入院数はそれほど変わらなかったため、救命救急センター経由の入院比率が相対的に上昇した。

7 分娩件数・ハイリスク分娩件数

月平均分娩件数(通常分娩件数/ハイリスク分娩件数/ハイリスク分娩率)は、令和元年度62.2件(50.3件/11.9件/19.2%)、令和2年度(1月累計)59.1件(49.3件/9.8件/16.6%)と今年度途中までは増加傾向にあったが、1月の件数が減った影響により微減した。

8 分娩における地域別患者構成比

当院における分娩の地域別患者構成比は、病院所在地である横浜市港北区は42.7%で旧横浜市北部医療圏は約4割を占めた。旧横浜市北部医療圏6区の合計は83.2%となり、患者構成比は例年通りであった。

9 ノバリス治療実績

月平均患者数は令和元年度21.3人(泌尿器科11.3人/呼吸器外科1.8人/脳神経外科8.3人)、令和2年度(1月累計)26.4人(泌尿器科12.6人/呼吸器・乳腺外科4.6人/脳神経外科9.2人)と増加した。

10 ガンマナイフ治療実績(脳神経外科にて実施)

年間実績と月平均患者数は令和元年度569件/47.4人、令和2年度(1月累計)387件/43.0人となり、機器の更新工事のため11月が0件となった影響があったが、月平均では例年並みとなった。

11 ダヴィンチ治療実績(泌尿器科、外科、産婦人科にて実施)

年間実績と月平均患者数は令和元年度129件/10.8人、令和2年度(1月累計)122件/12.0人となり、昨年度より産婦人科が14件と治療実績が増え、例年並みの治療実績となった。

(2) 新規登録医療機関について

登録医の登録状況

令和3年1月31日現在の登録医療機関数は663医療機関(医科525医療機関、歯科138医療機関)877名登録して頂いている。令和2年11月から令和3年1月の3ヶ月で、新規登録医療機関は36件増加した。

(3) 登録医制度(共同利用制度)の実施状況について

共同利用の利用状況は以下のとおりで、MRIの件数が今年度若干減少した。

(令和3年度1月累計) (参考令和元年度実績)

CTの検査目的の利用件数	246件	268件
MRIの検査目的の利用件数	123件	198件
上部消化管内視鏡検査目的利用件数	12件	8件

(4) 労災だよりについて 今年度は5回発行した。

- (5) 令和2年度医療機関の訪問実績について
令和3年2月末現在、235施設の医療機関に訪問した。下り搬送の医療機関にも救急科の医師と訪問し、受け入れの協力をお願いしている。
- (6) 出張市民公開講座の開催について
令和2年度は15件開催を計画したが、新型コロナの影響により6件が中止となったが、オンラインの開催や人数制限が感染対策等を徹底して9件開催となった。今後は、区役所や地域ケアプラザと協力し、積極的に開催をすすめていきたい。
- (7) 令和3年度地域医療支援委員会について
例年通り年4回の開催を計画している。日程等時期については改めて調整したい。また登録医の会や市民公開講座については、web開催など開催方法や規模縮小等を工夫し、開催する方向で進めたい。

(8) 質疑応答・意見交換

- ・入院・外来患者数等実績報告、新型コロナについて

(内藤委員長) 新型コロナによる病院の影響についてはいかがであったか？

(三上院長代理) 全体的に入院患者が20%減少し、特に4～5月は緊急事態宣言により診療制限を実施したが、1月に2回目の緊急事態宣言には前回のこともあり地域への影響を最小限に留めることが出来た。

(内藤委員長) 診療所への受診抑制があった。東京に近い鶴見区や港北区など横浜市北部圏の陽性率が増加したと思われる。自院でもPCR検査を実施したが1月の陽性率が25%を超えた。2月以降は徐々に陽性率が減少したが、下り搬送の受け入れ病院が少ないことから横浜労災病院の負担になったのではないか。

(三上院長代理) 1月から2月にかけて下り搬送が改善された。

(山本俊委員) 青葉区の新型コロナの患者が2～3日で増加した報告があった。東京の新型コロナ増の影響で、青葉区全体の患者が増加すると思われる。

(岩田委員) コロナ専用病棟により横浜労災病院の専床率が減っているのではないか？

(平澤副院長) 新型コロナ病床は、当初救命救急病棟に個室4床を設置し、患者の受け入れを始めたが、新型コロナの患者が増加したため、救命救急病棟全体に受け入れを増やした。その後、1病棟48床を新型コロナの受け入れ病棟に転換し、個室8床と大部屋を含め16床を使用した。最近2週間の救急で在宅の新型コロナ患者が増加したが、下り搬送の影響もあり当院の受け入れ病床は空いている。

(大山委員) ワクチンの接種が進めば改善できると思われるが、新型コロナは最終的にはどうなるのか。病院が受け入れ体制を続けなければいけないのか。

- (芝山委員) 3月になって鶴見区もコロナ感染患者の陽性率が増えてきている。
- (二宮委員) コロナワクチンのアナフィラキシーショックがあれば、労災で受け入れをお願いしたい。
- (片山委員) 歯科でのクラスターは出ていないが、無症状のコロナ患者について懸念している。早めのワクチン接種を希望している。3～5月に歯科の受診抑制の影響を受けたが今は患者が戻っている。
- (坂本委員) 高齢者へのワクチン接種について、保険薬局の薬剤師だけでは足りない為、病院の薬剤師に協力を依頼している。
- (吉田委員) 救急患者の受け入れに苦勞している。労災の協力をお願いしたい。
- (内藤委員長) 救急隊の受け入れ先が見つからず、医療局が調整に苦慮している。今後の受け入れの協力をお願いしたい。
- (北川委員) 新型コロナの患者について、人口比ではそれほど多くはない。労災の下り搬送の受け入れ先を教えてほしい。
- (平澤副院長) 港北区に限らず、比較的、青葉区や戸塚区で患者の住所に近い病院などへお願いしている。
- (内藤委員長) 下り搬送の病院が増えてはきている。第4波がきても協力体制がとれるよう病院協会より各病院へお願いしている。
- (鈴木副委員長) 労災病院のスタッフはワクチンの接種をされたのか？
- (平澤副院長) 先行接種は190名実施した。ワクチンの在庫残り約900名分をリスクの高い医師や看護師、医療職等に接種していきたい。3箱目が搬入されれば、病院全体に接種できると思う。
- (鈴木副委員長) 医師1人、看護師2人で1時間に50人しか高齢者へ接種ができない。ワクチンの搬入が厚生省より5月と聞いているが、いつ入るかわからないため苦慮している。
- ・新規登録医療機関について
- (片山委員) 歯科の新規登録医療機関がなかったため相談したい。
- (内藤委員長) 歯科医院の先生方に案内して事務局に伝えたい。
- (松本係長) 登録医の案内について後ほどお知らせします。

・医療機関訪問について

(内藤委員長) 医療機関の訪問について以前から続けているのか。

回 答→ 昨年度の医療機関訪問は 40 件程であったが、今年度は新型コロナで患者数が減少し、8月のクラスター発生の報告もあり積極的に訪問している。

(前原副院長) 例年は登録医の会を開催しているが、今年度は新型コロナの影響で開催できなかったため、そのかわりに医療機関への訪問を進めている。

・出張市民公開講座について

(内藤委員長) 新型コロナの影響で、院内での開催が出来ないため、出張での開催に転換している。今後もお願いしたい。

(山本俊委員) 出張市民公開講座のオンライン開催人数や年齢層はどのようであったか。

(平澤副院長) 新型コロナの講演について、港北区の保健センターや医師会、歯科医師会と協力して1ヶ月開催した。市役所のホームページで確認してほしい。

(内藤委員長) 講演会を含めて情報発信について、若い年代層にも聞いて頂きたいので、ユーチューブなどのweb開催も含め両方の方向性で進めて頂きたい。

・新型コロナの最近の状況とワクチン接種について

(平澤副院長) ワクチンの副作用について、先行接種で190人実施し発熱が3名あった。接種の痛みはあったが業務へ支障はなかった。アナフィラキシーショックは当院では無かったが、他の施設では蕁麻疹等があった。今後ファイザーと連携し重篤な副作用が無いように進めたい。また、1本のバイアルより、何回接種が出来るかについて、理論上は6人接種可能である。6人数分とれるかどうか、新たに支給されたツベリクリン針で確認し、少しでも多くの人へ接種できるようにしたい。ただ次回のワクチンがいつ搬入されるか不明のため、行政と情報を共有していきたい。

(山本俊委員) インスリン針は27ゲージで細い針でも壊れずに接種できるのか。

(平澤副院長) ファイザーより支給された注射針で接種していきたい。

(大山委員) インスリン針でも接種できるのか。

(平澤副院長) 針は短くてもよほど皮下脂肪が厚くなければ接種できるのではないかと。

(岩田委員) 休日診療所で4月以降接種した際、アナフィラキシーショックや蕁麻疹や呼吸困難が発生した場合の対応について教えて頂きたい。

(平澤副院長) 接種後副作用が発生するのは5～10分以内であるため、接種会場で最低15分、アレルギーの患者は30分安静にするよう指示している。また、喘息や食物アレルギーについては長めに待機するように指示している。3月にアレルギー学会がコロナワクチンについて、アナフィラキシーショックのマニュアル指針がでている。行政でも対応マニュアルが作成中とのこと。

(北川委員) 3月11日に横浜市大や横浜市医師会、保健所の医師と消防局の担当が会合が行われる。そこで指針等が検討されるとのこと。

(内藤委員長) 医師会としても情報を収集し、行政と協力し先生方にお知らせしたい。